



DoJa-3.5API iα ppli Development Kit リリースノート

2.22 版

平成 16 年 9 月 2 日
株式会社 NTT ドコモ

改版履歴

版数	項目	種別	内容	
1.00	-	新規	-	2003年8月 制定
1.01	-	変更	改版内容	A P I リファレンス変更に伴う改版
			改版理由	505 i S がベースとなったため大幅変更
1.02	-	変更	改版内容	AudioPresenter2 を MFi に対応しました。
			改版理由	未対応であった機能に対応
1.03	-	追加	改版内容	Eclipse2.1.1 プラグイン - デバッガ対応 搭載
			改版理由	アプリの開発効率向上のため
1.04	2.2	追加	改版内容	JBuilder 向けの実装を施しました。
			改版理由	ボーランド社 製品 JBuilder10 対応
2.00	-	追加	改版内容	FeliCa 機能 ほか
			改版理由	900iC 向け
2.10	-	追加	改版内容	FeliCa アプリエミュレート機能を追加しました。
			改版理由	エミュレータ機能向上に伴う変更
2.11	-	変更	改版内容	Graphics#fillpolygon を paint() 内で実行した場合にメモリ開放漏れが発生する不具合を修正しました。
			改版理由	不具合対応
2.20	-	追加	改版内容	仮想 FeliCa データファイルビューワ機能を追加しました。
			改版理由	900iC 向け
2.21	-	追加	改版内容	仮想 FeliCa 機能強化、アプリ連携不具合修正
			改版理由	900iC 向け
2.22	-	変更	改版内容	KToolBar メニューの表示フォント修正
			改版理由	不具合修正

1. はじめに

このリリースノートでは、「iα ppli Development Kit for DoJa-3.5」の概要と制限事項について説明します。

1.1 機能

「iα ppli Development Kit for DoJa-3.5」は、DoJa-3.5 の Java アプリケーション実行環境を Windows2000/XP 上でエミュレートする機能と、その上で動作する i アプリの開発環境としての機能を持つソフトウェアです。

1.2 制限事項

1. 「iα ppli Development Kit for DoJa-3.5」の赤外線による OBEX 通信は、Windows98 では、irxfer.exe を、Windows2000/XP では、irmon.dll を利用しています。このため、「iα ppli Development Kit for DoJa-3.5」と移動機間での赤外線による OBEX 通信はできません。
なお、「iα ppli Development Kit for DoJa-3.5」同士の赤外線による OBEX 通信は可能です。
2. TextBox 及び Canvas.imeOn()に関する制限事項
 - processEvent()の KEY_RELEASED_EVENT 処理内で Canvas.imeOn()を呼び出して FEP を起動したとき、1 回目の Enter キー押下が無視されます。
Enter キーによる確定動作のためには、Enter キーを 2 回押下してください。
 - DoJa-3.5 では、FEP における改行コードは CRLF("\r\n")に統一されていますが、LF("\n")も使用可能です。
しかしエミュレータでは、改行コードに LF("\n")を使用した場合に正しく改行コードと認識されず、スペースに置き換わって表示されてしまう場合があります。
改行コードには CRLF("\r\n")を使用するようにしてください。
3. Camera に関する制限事項
エミュレータでは実際の画像撮影は行なわれず、takePicture()メソッド呼び出しで Windows のファイル選択ダイアログが表示され、選択された画像ファイルが撮影画像としてアプリケーションに渡されます。
この仕様により、以下の点で実機の動作と異なります。
 - 撮影画像サイズセットした Camera オブジェクトでの撮影においても、取得される画像サイズは選択画像ファイルに依存します。
 - フレームをセットした Camera オブジェクトでの撮影においても選択した画像にはフレーム画像は合成されません。
4. HTTP 通信に関する制限事項
 - サーバよりレスポンスコードとして 401 が返った場合の認証機構は実装されていません。401 レスポンスを受け取った場合は IllegalStateException が発生します。
 - トラステッドアプリから HTTP 通信を行なう場合に、User-Agent ヘッダへのトラステッド ID 付与は自動的には行なわれません。
User-Agent にトラステッド ID が付与された状態の試験を実施する必要がある場合は、ネットワーク設定ウィンドウの User-Agent を変更して実施してください。

5. AudioPresenter に関する制限事項

- ポート指定により 2 つの異なるポートを持つ AudioPresenter を生成することができますが、エミュレータではこれらに対し同じチャンネルが使用されるため、再生中の音色変更、ボリューム変更等、内部的にチャンネルに影響する属性値の変更については両方のサウンドに影響を与えます。
- エミュレータでは MF i 音源を持っていないため、MF i データは M I D I で再生しています。そのため、実際の移動機とは違った振る舞いをする場合があります。
- SMF の再生は、実際の移動機では GM System - Level 2 に対応していますが、エミュレータでは、GM System - Level 1 までしか再生する事はできません。
(GM2 のイベントは無効になります。)
- チャンネルコンフィギュレーションで、各チャンネルをパーカッションマップ、サウンドマップに設定できますが、エミュレータでは 9ch にサウンドマップを割り当てた場合は正常に再生されません。(これは、M I D I 再生による制限です。
(デフォルトのチャンネルは以下のとおりです。
 - 0 ~ 8ch、10 ~ 15ch : サウンドマップ
 - 9ch : パーカッションマップ)

6. ApplicationStore に関する制限事項

selectEntry() メソッドは、本来ユーザ操作によって端末に保存されている i アプリのエントリが選択されるメソッドですが、エミュレータではアプリ一覧は表示されず、固定のエントリ ID が返却されます。

7. CallRecord に関する制限事項

getLastRecord(int type) は、引数 type により着信履歴(CALL_IN)/発信履歴(CALL_OUT)を指定して取得できますが、エミュレータでは何れを指定しても着信履歴ファイル(lib/phonehistory/phonehistory.lst) の先頭の内容を返します。

8. i アプリオプション A P I PictureLight に関する制限事項

setColor() で、高輝度発光中に呼び出すとタイミングによりライトの色が変化する事があります。

9. i アプリオプション A P I StereoImage に関する制限事項

setLeftImage() メソッドおよび、setRightImage() メソッドは、それぞれ左眼用と右眼用のステレオイメージを設定するメソッドですが、エミュレータでは設定してもイメージは描画されません。

10. 仮想 FeliCa データファイルビューワに関する制限事項

フリー領域を使用するアプリケーションは A D F の FeliCaCPID と FeliCaPIN の値を仮想 FeliCa データファイルに適切に設定する必要があります。

2. 実行方法

doja コマンドは、大きく分けて2通りの起動方法があります。一つは iappliTool と呼ばれる開発ツールから起動する方法で、もう一つは、iアプリを単体で起動する方法です。

2.1 iappliTool

コマンド行引数なしで、doja.exe を実行すると、iappliTool と呼ばれる開発ツールが起動します。また、doja_g.exe を実行すると、デバッガやデバッグトレースが可能な iappliTool が起動します。

2.2 単体起動

コマンドラインから、

```
doja.exe -i ADFファイル
```

を実行すると、ADFファイルを読み込み、ADFファイルと同じディレクトリにJARファイルがダウンロードされたとして、iアプリケーションが実行されます。

例：

```
doja.exe -i tetris\bin\tetris.jam
```

または

```
doja.exe クラス名
```

例：

```
doja.exe TestCanvas
```

doja.exe では次のようなオプションを指定できます。

- ・ -mx ヒープサイズ
(このパラメータは、他のパラメータより最初に指定してください。)
- ・ -i ADFファイル
- ・ -s スキン名
- ・ -version
- ・ -help
- ・ -t 起動タイプ番号
(0: 通常起動 1:初回起動 2:タイマ起動 3:待受起動 4:外部機器起動 5:ブラウザ起動
6:メーラ起動 9:即起動 10:受信フォルダ起動 11:送信フォルダ起動 12:未送信フォルダ起動
13:アプリ連携 (アプリ内から))
※ 起動したアプリがアプリ連携をする場合は、必ず -t 13 を指定してください。
- ・ -j JARファイルのパス
- ・ -u ADFへのURL
- ・ -w Windows の親ウィンドウのハンドラ値
- ・ -p 起動パラメータキー1 起動パラメータ値1・・・-p 起動パラメータキー16 起動パラメータ値16
- ・ -classpath クラスパス
(main メソッドを実行)

doja_g.exe では次のようなオプションを指定できます。

- -debugger
- -suspend
- -nosuspend
- -jdkpath J D K のインストール先ディレクトリ
- -port デバッグエージェント間デバッグ用ポート番号
- -debugport I D E 間デバッグ用ポート番号

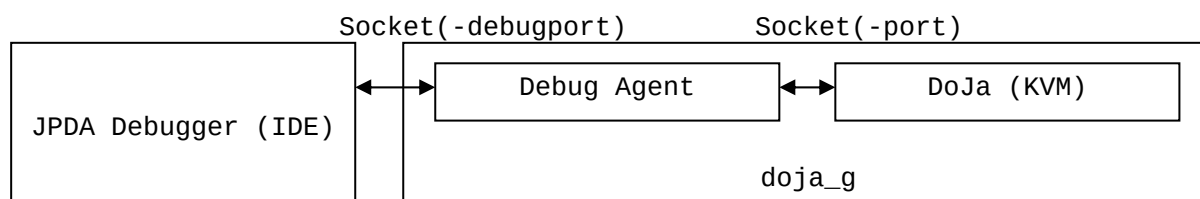


図 2-1 デバッグインターフェースアーキテクチャ

- -traceallocation
- -tracegc
- -tracegcverbose
- -traceclassloading
- -traceclassloadingverbose
- -traceverifier
- -tracestackmaps
- -tracebytecodes
- -tracemethods
- -tracemethodsverbose
- -tracestackchunks
- -traceframes
- -traceexceptions
- -traceevents
- -tracemonitors
- -tracethreading
- -tracenetworking
- -traceall